

舞鶴引揚記念館 提供資料

「舞鶴への生還」

1945-1956 シベリア抑留等日本の本国への引き揚げの記録

「そして、抑留から交流へ」

46万人のシベリア抑留体験者を迎え入れた引き揚げの町舞鶴は、旧ソ連領で抑留地の一つだったウズベキスタンと、70年以上の時を経て国際交流を築いた。

◆ユネスコ世界記憶遺産登録日

: 2015年10月10日



◆登録推薦書の概要：

白樺日誌（ユネスコ世界記憶遺産登録資料）

「舞鶴への生還—1945～1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録—」は、第二次世界大戦の敗戦にともない日本帝国が崩壊する中で、ソ連領に抑留された約60万人から約80万人といわれる日本軍人と民間人たちの、筆舌に尽くしがたい抑留生活と日本本国への苦難に満ちた引き揚げの歴史を伝える資料である。彼らの本国への引き揚げは、終戦から11年を経た1956年に終了するが、ソ連はすでにドイツ人等の旧敵国側の軍人と民間人の抑留を同様に行っており、日本人の抑留もその一環としての同時代的意味を持つ歴史的出来事である。また抑留と引き揚げは、戦後の日本では、国民が戦争のない平和な世界を希求する上で大きな礎となった稀有な体験として、後世に語り継ぐべき大きな戦争の記憶となっている。

当該資料は、意に反して抑留された抑留者たちの困窮や絶望、生き抜く力、家族への思いや帰国への希望、そして彼らの帰国を待つ留守家族の家族愛と日本国民の同胞愛など、人類共通の普遍的主題を伝えるものである。公的記録が乏しい中、奇跡的に現存する当該資料は、第二次世界大戦後の悲惨な惨禍を生き抜いた、一人ひとりの人間性あふれるまさに稀有な、真正無二の世界が共有すべき貴重な遺産である。